

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2015 年 8 月

「購いの計画（1）」 「聖化、印する働き、聖所」 「キリストのうちにある完全」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「贖いの計画 (I)」

4

聖書の教え

朝のマナ

「聖化、印する働き、聖所」

8

われらの主よ、きたりませ

現代の真理

「キリストのうちにある完全」

40

三重のメッセージ - もう一人の御使のメッセージ

力を得るための食事

「きゅうりと水菜とみょうがのサラダ」

50

お話コーナー

「誇り高い?それとも平和的?」

52

教会

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話 : 0494-22-0465

FAX : 0494-40-1045

【高知集会所】

〒 780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話 : 088-831-9535

【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話 : 0980-55-8136

アクセス

ホームページ : <http://www.4angels.jp>

メール : support@4angels.jp

発行日 2015 年 7 月 31 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on front cover;

HighRes on pages 8, 52

三段階のメッセージ

わたしは、第一、第二、第三の天使による三段階のメッセージを示された。わたしにつきそっていた天使は言った。

「このメッセージをすこしでも変える者はわざわざいだ。このメッセージを本当に理解することが非常に大切だ。魂の運命は、このメッセージをどう受け入れるかにかかっている」。わたしはふたたび三重のメッセージを示され、神の民がどんなに高い代価を払ってその経験を得たかを示された。

それは多大な苦難と激しい戦いを経て得られたものだった。神は、彼らを一步一步みちびいて、ついに彼らを動くことのない固い土台の上に置かれたのである。わたしは、各人がこの土台にやってきて、その基礎を調べるのを見た。ある者は、よろこんですぐにそこにとびのった。ある者は、この基礎の欠点をさがしはじめた。彼らは、この基礎に手を加えて、土台をもっと完全にし、人々をもっと幸福にしようと望んだ。ある者は土台からとび降りて調べ、置き方がちがっていると断言した。しかしわたしは、ほとんどすべての者が土台の上にしっかり立って、台からとび降りた人たちに向かって、土台を作られたのは神なのだから、文句を言うのをやめるように、そうでないと神と戦っていることになるのだと、説きすすめているのを見た。彼らは、自分たちが神の不思議な働きによってこの堅固な土台にみちびかれてきた次第を詳しく語り、いつせいに目を天へあげて、大きな声で神を賛美した。文句を言って台からとび降りた人々の中には、これに影響されて、謙遜な面持ちで、もう一度とびのる者も幾人かあった。……

すべての人間お心をお読みにする神は、彼らが口にとなえているキリストへの愛を試してごらんになる。全天は、深い関心をもって、第一天使のメッセージが受け入れられるかどうかを見守った。……

光が輝き出る。そして、心の正しい人はみな、……残りの民に加わるのである。

(初代文集 421)

7章 贖いの計画 (I)

罪を通して、男女は命の源であられる神から離れました。そして自分たちの回復のためになされた備えをわがものとしないう限り、永遠の死をこうむらなければならないのです(根絶)。(イザヤ 59:2 (ヨハネ 1:4 参照); ローマ 5:12; 6:23 (上句))。しかし、彼らは選ぶのでない限り、滅びる必要はありません。キリストを通して、神に戻り、永遠の命を享受することは可能なのです (ヨハネ 6:35, 40, 47, 48; 14:6)。わたしたちは神の聖なる律法を犯しましたが、キリストはわたしたちの罪のために十字架上で死なれることによって、わたしたちをこの律法によって宣告された死刑から贖ってくださいました。それだけではありません。キリストは人の努力に結合させるために、わたしたちに神聖な力を与えてくださいます。こうして、キリストを信じる信仰によって (わたしたちが自分のためのこのお方の命と死を受け入れ、自らを聖霊の導きの下におき)、また悔い改めと再生によって、わたしたちははじめの両親が失ったものを再び得るのです。

贖いの計画は墮落した人類に対する神の愛が動機となっています。わたしたちの救いのために満ちみちた備えがなされてきました (創世記 3:15; イザヤ 12:2; 45:22)。パリサイ人たちがキリストに対して投げつけた「この人は罪人たちを迎えて」という告発こそ、わたしたちの大いなる希望です (ルカ 15:2; ヨハネ 3:15; テモテ第一 1:15; コリント第一 15:3; テサロニケ第一 5:9, 10; テトス 3:3-8)。

「自分自身の義を確立させようと努力するかわりに、われわれは、キリストの義を受け入れる。キリストの血がわれわれの罪を贖うのである。キリストの服従が、われわれに代わって受け入れられる。こうして、聖霊によって新しくされた心は、『御霊の実』を結ぶのである。キリストの恵みによって、われわれは心に書かれた神の律法に従って生きるのである。キリストのみ霊を持っているから、彼が歩かれたように歩くのである。」(人類のあけぼの上巻 442, 443)

「高慢な心は、自分の行為によって救いを得ようと努力する。しかし天国にはいる権利書と資格はキリストの義のうちにある。自分自身の弱さを自覚し、すべてのうぬぼれを取り去って、自分自身を神の支配にまかせるまでは、主は、その

人の回復のために何もすることがおできにならない。自分自身を神にまかせるときに、彼は、神が与えようと待っておられる賜物を受けることができる。必要を感じている魂にはどんなものも与えられないものはない。彼は、『すべての満ちみちた徳』の宿っている神に、何の制限もなく近づくことができる。」(各時代の希望中巻 4)

A. 恵み、信仰、そして行い

恵み

恵みは「神の賜物」です。それは、「値しない者への恩寵」です(エペソ 2:8; ローマ 5:20, 21; 6:23)。

恵みは人が罪のうちにい続けるための許可証ではありません(ローマ 6:1, 2; ガラテヤ 2:17, 18; ヨハネ 8:11; ヘブル 10:26-29; ヨハネ第一 3:3-10)。そうではなく、人が神に従順をお捧げるための備えであり、力なのです。主に従う人々は、もはや「律法〔の刑罰や宣告〕の下」にはいません(ローマ 6:14, 15)。彼らはキリストの恵みの下にいたのであり、その恵みは彼らが全能者の戒めに従うことを可能にします(コリント第一 15:10; テモテ第二 2:1 (エペソ 6:10 参照); エペソ 2:8-10; ピリピ 2:13; 4:13; テトス 2:11, 12; ヨハネ第一 3:22; 5:3)。

「人間のうちに、サタンに対する敵意を起こさせるのは、キリストが心の中に植え付けられる恵みである。この改変の恵みと更生の力とがなければ、人間は引き続きサタンの捕虜であり、常に彼の命令に従うしもべであるしかない。しかし、心の中の新しい原則が、これまで平和であったところに争闘を起こすのである。キリストがお与えになる力によって、人間は、暴君であり、横領者であるサタンに抵抗する力を得る。だれでも、罪を愛するかわりに罪を憎み、これまで心の中を支配していた欲望に抵抗して、それに打ち勝つならば、それは、全く上からの原則が働いていることを示している。」(各時代の争闘下巻 244, 245)

「男女がキリストの恵みと力を最大限に表すことのできるのは、生まれつきの人が神性にあずかる者となり、キリストが与えてくださる力を通して、世にある欲による墮落を克服するときである。」(両親、教師、そして生徒への勧告 251, 252)

「真の平和をつくり出したり、永続させたりできる唯一の力は、キリストの恵みである。これが心にうえつけられるときに、それは争いや不和をひき起す悪い欲

望を追い出す。」(各時代の希望中巻 9)

「キリストの恵みがなければ、罪人は望みのない状態である。彼のためにできることは何一つない。しかし、神聖な恵みを通して、超自然的な力が人に与えられ、思いと心と品性のうちに働く。罪がその憎むべき性質のうちに識別され、ついには魂の宮から追い出されるのは、キリストの恵みが与えられることを通してである。わたしたちが救いの働きにおいてこのお方と結びつくために、キリストとの交わりのうちに導き入れられるのは、恵みを通してである。」(セクレット・メッセージ 1 巻 366)

信仰

人は恵みによって、信仰を通して救われます(ヨハネ 3:14-16; 使徒行伝 15:11; エペソ 2:8, 9; テモテ第二 3:15)。

「信仰とは、望んでいる事から確信し、まだ見ていない事実を確認することである」(ヘブル 11:1)。

「信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである」(ローマ 10:17)。

「信仰を通してわれわれは神のめぐみを受ける。だが信仰はわれわれの救い主ではない。信仰そのものには功績がない。信仰は、キリストをしっかりとらえて、彼の功績すなわち罪からの救いをわがものとする手である。またわれわれは神のみたまの助けなしには悔い改めることさえできない。聖書にはキリストについて、『イスラエルを悔い改めさせてこれに罪のゆるしを与えるために、このイエスを導き手とし救主として、ご自身の右に上げられたのである』といわれている(使徒行伝 5:31)。悔い改めは、罪のゆるしとまったく同じにキリストからくるのである。

では、われわれはどのようにして救われるのだろうか。「ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように」人の子イエスもまたあげられた(ヨハネ 3:14)。蛇にだまされ、かまれた者はみなこのイエスを仰ぎ見て生きることができる。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ 1:29)。十字架から輝いている光は神の愛をあらわしている。神の愛はわれわれをみもとにひきよせている。このひきよせる力にさからわなければ、われわれは救い主を十字架につけた罪を悔いて十字架の下にみちびかれる。その時神のみたまは、信仰を通して魂に新しいいのちを生じさせる。考えること望むことはキリストのみところに服従させられる。」(各時代の希

行い

贖いの計画の目的の一つは、わたしたちが自分自身の義の行いに信頼することをやめるようにさせることです（ルカ 16:15; テモテ第二 1:9; ガラテヤ 2:16; テトス 3:4-7; ローマ 3:27, 28; ヘブル 4:10）。その理由は、わたしたちがキリストなしに自分でできる義のわざは罪に過ぎないからです（イザヤ 64:6; ローマ 14:23; ルカ 18:11, 12; マルコ 7:6-13）。神は日ごとにわたしたちの罪深い心を変えようと意図しておられます。そのとき、キリストはご自分のみわざをわたしたちのうちに生み出してくださるのです。わたしたちの信仰はよい行いに満ちるようになります。なぜなら、「行いのない信仰（は）死んだもの」だからです（イザヤ 26:12; コリント第一 15:31; ガラテヤ 2:20; 5:22, 23; ヤコブ 2:20-22）。わたしたちの心のうちに聖霊によって新たにされるキリストの義のわざが、わたしたちの義となります（黙示録 19:8）。

われらの主よ、きたりませ

Maranatha



8月「聖化、印する働き、聖所」

「この恵みの時に」

「わたしは、恵みの時にあなたの願いを聞きいれ、救の日にあなたを助けた。見よ、今は恵みの時、見よ、今は救の日である。」(コリント第二 6:2)

キリストがまもなく来られるということをわたしたちは確かに信じている。このことはわたしたちにとってはおとぎ話ではなく、現実のことである。わたしたちが今日持っている教理は現代の真理であって、わたしたちが審判の時に近づいているということをわたしたちは疑ってはいないし、長い間疑ってもこなかった。聖天使たちに付き従われ、忠実な者たち、また義なる者たちに不死という仕上げの一筆をいれるために、天の雲に乗って現れるお方にお会いする準備をわたしたちはしている。主が来られるのは、わたしたちの罪を清めたり、品性の欠点を取り除いて、わたしたちの気質や気性の欠陥を直すためではない。もしもこれが当然なされなければならない働きであるなら、その時の前にすべて完了する。主が来られるとき、聖なる者は聖なるままである。自分の体と精神を聖なるままに、清く、純潔に保っている者は、その時不死という仕上げの一筆を受ける。しかし不正な者、清められていない者、汚れた者は永久にそのままである。そのときには、彼らのために、その欠点を取り除き、聖なる品性を与える働きはなされないのである。精錬してくださる方はその時には、精錬の工程を進め、人々の罪と腐敗を取り除く働きはなさらない。きよめの働きは恩恵期間の間にすべてなされなければならないことであって、わたしたちのために成就するときがあるとすればそれは今である。

わたしたちのさまざまな能力を通して神の真理を受け入れ、その真理の感化力の下に来るとき、それはわたしたちを栄光の王国と聖天使たちの社会にふさわしい者とするために必要な働きを、わたしたちのために成し遂げる。わたしたちは今神の仕事場にいる。わたしたちのうちの多くの者は石切り場から持ってこられた荒い石である。しかしわたしたちが神の真理をつかむとき、その感化力はわたしたちに影響を及ぼす。それはわたしたちを高め、どのような性質のものであっても、わたしたちからあらゆる欠点と罪を取り除く。このようにしてわたしたちは美しい王にお会いし、栄光の王国で、ついには純潔で、天使たちと一つになるための準備ができるのである。この働きがわたしたちのために成し遂げられるのは地上であり、わたしたちの体と霊が不死の者にふさわしくなるのもこの地上においてである。(教会への証 2 巻 355, 356)

道徳的な品性の本質

「わたしたちは限度をこえて、他人の働きを誇るようなことはしない。ただ、あなたがたの信仰が成長するにつれて、わたしたちの働きの範囲があなたがたの中でますます大きくなることを望んでいる。」(コリント第二 10:15)

あなたはサタンの魔力が働いている場所から離れて、神への忠誠心をゆるがせないようにすべきである。キリストを通して、あなたは幸せになることができるし、また幸せになるべきであり、そのために克己の習慣を身につけるべきである。あなたの思いさえも神の御旨に服従させ、あなたの感情も理性と宗教の下におかなければならない。あなたに想像力が与えられたのは、あらぬ空想をしたり、抑制することにも律することにも努めず思いのままにさせるためではない。もし思いが正しくなければ、感情も正しくない。そして思いと感情が結合して、品性を形成するのである。……もしもあなたが自分の印象に屈して、自分の思考が不信や疑いやつぶやきの水路に流れ込むのを許すなら、あなたは最も不幸な人間のひとりとなる。……

親愛なるF姉妹、あなたは病的な想像に捕らわれており、あなたの感情が、理性や判断を完全に支配するのを許すことによって、神をはずかしめている。あなたには断固とした意志があり、それによって思いが体に作用し、血液の循環を乱して、特定の器官にうつ血を生じさせる原因となっている。こうして、あなたは自分の感情のために健康を犠牲にしているのである。

あなたは間違いを犯している。もしこれを正さないなら、単にあなた自身の幸福を台無しにするだけではすまない。あなたは自分だけではなく、家族の者を現実に傷つけているのである。……あなたは……強く働く想像力に、理性を支配させている。……あなたが自分の感情に打ち勝つ力がないのなら、このことは罪とはならないであろう。しかし、それがこのように敵に屈していることの答えにはならない。あなたの意志は、神のご意志に逆らって隊列を組むのではなく、清められ、抑制される必要がある。……

人は悲しみ、心配、困惑の世に置かれている。人はこの地上で、アダムとエバが受けたように、テストされ、試されるべきであるが、それは人が正しい品性を発達させ、不和や混乱から離れて、調和の取れた者となることができるためである。わたしたちにとって、なすべき重要なことが沢山ある。……そしてわたしたちにとって、楽しむべきことも沢山ある。キリストを通して、わたしたちは神とのつながりに入る。キリストの憐れみは、わたしたちを絶えざる義務の下におく。このお方の恩寵に値しないものであると感じて、わたしたちはその最も小さいものに対しても感謝すべきである。(教会への証 5 巻 310)

品性こそ魂の質

「さんごも水晶も言うに足りない。知恵を得るのは真珠を得るのにまさる。」(ヨブ 28:18)

神のかたちにかたどって形成された品性は、この世から来たるべき世界に持つて行ける唯一の宝である。この世でキリストの教えを受けたものはその身につけた神の性質を全部天の住居に持つて行くのである。そして天では絶えず成長する。

.....

知能や素質は品性ではない。なぜならこういったものを持つていても良い品性の持ち主とはとても言えないような人たちが、しばしばいるからである。名声も品性とは関係ない。真の品性とは魂の質であって、行為の中に現われるものである。

良い品性は金や銀よりも、もっと価値のある資本である。それは恐慌や破産にも影響されることがない。そしてこの世の財産がみな一掃される日にも豊かな報いをもたらす。誠実さ、堅固さ、そして忍耐こそ、すべての者が熱心に養い育てなければならない特質である。なぜならこういったものを身につけてこそ、わたしたちは何ものにも打ち負かされない力を持つことができ、力強く善をなし、悪を退け逆境に耐えることができるからである。

品性の持つ力には二つの要素がある。意志の力と自制の力である。多くの青年たちは、抑制されない激しい感情を品性の強さだと勘違いしている。しかし実際には、感情によって支配される人は弱い人である。人間の真の偉大さや気高さは自分を支配する感情の力によってではなく、自分の感情を抑える力によって測られる。最も強い人とは、間違ったことに敏感でありながらも、怒りを押さえて敵を許す人である。

若い人たちは服装や行動を世の流行にあわせようと熱心である。もしそれと同じくらいの熱意を持つて立派な品性、すばらしい人柄を身につけたいと望むなら、社会を向上させる感化力を持つて活動的な人生の舞台に登場する人が、今ひとりしかないところに何百人もいるようになるのが見られるであろうに。(家庭の教育 157, 158)

助け主であり贖い主であられるキリスト

「すなわち、ひとりの人の不従順によって、多くの人が罪人とされたと同じように、ひとりの従順によって、多くの人が義人とされるのである。」(ローマ 5:19)

人間は墮落したので、自分の人間としての力でサタンに勝利することはできなくなった。キリストはご自身の神性と人性とを結びつけて、人間を助けるために天の宮廷から来られた。エデンにいたアダムは彼のすぐれた長所によって、サタンの誘惑に抵抗し、サタンを打ち負かすことができることをキリストは知っておられた。人が墮落して以来エデンの園から出て、神の光と愛から離れた状態では、人が自分の力でサタンの誘惑に抵抗するのは不可能であることもキリストは知っておられた。人間に希望を与え、完全な滅亡から救うために、このお方はへりくだって人間の性質をまわられて、ご自分の神の力を人性に結び付けられた。そうすれば、ご自身が人間のいるところで人間に接することができるからであった。キリストはアダムの墮落した息子、娘たちが自分たちでは得ることができない力を彼らのために得て下さった。そうすれば、このお方の御名によって、彼らはサタンの誘惑に打ち勝つことができるからである。……

エデンの園でのアダムとエバは最も良い環境に置かれていた。……彼らには罪の宣告の根拠になるものがなかった。……彼ら二人を造られた方が彼らの教師であった。しかし彼らはずいぶん敵の力と誘惑のもとに墮落した。サタンは四千年の間神の統治に敵対する働きを続けてきた。そして、固く決心して実行したので彼は力と経験を得た。墮落した人間にはエデンの園にいたアダムの持っていた優位性はなかった。彼らは四千年の間、神から離れていたからである。サタンの誘惑を悟る知恵と誘惑に抵抗する力はますます減じていき、ついにサタンが地上で勝ち誇って統治しているかのように見えるほどになった。食欲と情欲、そして世に対する愛と故意の罪が、そこからあらゆる種類の……腐敗が生じた悪の大きな技である。(エルクテド・メッセジ 1 巻 279, 280)

われわれの生活は混乱しているようにみえるかも知れない。しかし賢明な巨匠であられる神に自分自身をまかせるとき、神はご自身の栄えとなる生活と品性の型をつくり出される。こうしてキリストの栄光すなわちキリストの品性をあらわす人は、神のパラダイスに受け入れられる。(各時代の希望中巻 53)

信仰によって神の戒めに従う者はみな、アダムが罪を犯す前に生きていた罪のない状態に到達するのである。(サインズ・オブ・タイムズ 1902 年 7 月 2 日)

到達できる高い霊性

「あなたがたを守ってつまづかない者とし、また、その栄光のまゑに傷なき者として、喜びのうちに立たせて下さるかた」(ユダ 24)

キリストは律法のすべての要求に従順であられた。……

ご自身の完全な従順によって、このお方はすべての人間が神の戒めに従うことができるようにしてくださった。わたしたちがキリストに自己を屈服させるとき、わたしたちの心はキリストの心と結びつき、意志は主の意志に没入し、思いは主の思いと一つになって、思いは主に捕らわれる。わたしたちはキリストの生涯を送るのである。キリストの義の衣で覆われるとはこのことである。そうになるとキリストがわたしたちをご覧になる時、いちじくの葉で作った衣ではなく罪に損なわれた裸でもないキリストご自身の義の衣、すなわちエホバの神の律法に完全に従う者の衣をご覧になるのである。(信仰によってわたしは生きる 113)

贖いの計画を通して、神はそれがどれほど強くても、あらゆる罪深い特性に打ち勝ち、あらゆる誘惑に抵抗する方法を備えておられる。(レクテッド・メッセージ 1 巻 82)

最も強い誘惑も罪への言い訳とはならない。魂に負わされる苦難がどれほど大きくても、罪を犯すというのはわたしたち自身の行為である。いかなる人にも、罪を犯させるのは地上の権力や地獄の力ではない。自分の意志が同意し、心が許さない限り、情欲が理性に打ち勝ったり、不法が正義に勝利したりはできないのである。(サインズ・オブ・タイムズ 1913 年 4 月 15 日)

もしあなたがインマヌエルの君の血染めの旗のもとに立って、忠実に主のための奉仕を行うなら、あなたは決して誘惑に陥ることはない。なぜなら、あなたを墮落から引き離しておくことのできるお方があなたのそばに立っておられるからである。(高い召し 19)

わたしたちは一つの罪深い性質も残しておく必要はない。……(エペソ 2:1-6 引用)……

わたしたちが天の特質にあずかるとき、悪を行う先天的、後天的傾向は品性から切り離されて、わたしたちは善を行う生きた力とされる。天来の教師であられるお方に学び続け、日々主の品性にあずかることによって、わたしたちは神と協力してサタンの誘惑に打ち勝つ。神が働かれ、わたしたちも働くが、それはキリストが神と一つであられるように、わたしたちもキリストと一つになることができるためである。そのとき、わたしたちはキリストと共に天の御座にすわる。思いはイエスにあって平安と確信をもって休まるのである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 943)

クリスチャンの完全という高さに到達する

「どうか、わたしたちのうちに働く力によって、わたしたちが求めた思うところのいっさいを、はるかに越えてかなえて下さることができるかたに、」(エペソ 3:20)

もしあなたが、神をあなたの力とするなら、最も落胆する状況のもとで、あなたはとうてい到達するのは不可能だと思われるクリスチャンの完全という高さに達することができる。あなたの思想は高められ、あなたには気高い抱負、真理に対するはつきりとした理解力、また、あらゆる卑しむべき動機を超越した行動の目的を持つことができる。

もしあなたが品性の完全さに到達したいのなら、思考と行動が共に必要である。世と接触するとき、あなたは人の称賛をあまりにも熱心に求めないように、また彼らの意見に従って生きないように、警戒しているべきである。……謙遜という恵みを養い、あなたの無力な魂をキリストに固定しなさい。……世俗的な群衆の混乱と誘惑のただ中でさえも、あなたの魂は完全な穏やかさをもって魂の自立を守ることができる。

もしあなたが日々神と交わっているなら、このお方が人を評価なさるように評価することを学び、苦しんでいる人類を祝福するようにとあなたに課されている義務に快く応じて引き受ける。あなたはあなた自身のものではない。あなたの主は、あなたのこの上ない愛情とあなたの人生での最高の奉仕に、聖なる要求をしておられる。主はご自身の名誉と栄光のために、あなたの体と精神の最大限度までの能力を用いる権利をもっておられる。あなたが負うようにと要求される十字架が何であろうと……あなたはつぶやかずに受けるべきである。……

多くの者にはこの世で神も希望もない。彼らは罪を犯しており、墮落して、卑しくなり、サタンの罠に捕えられている。けれどもこのような人々を贖うために、キリストは天から下ってこられたのである。彼らは、最も優しい憐れみと同情、そして疲れを知らない努力を受ける対象である。なぜなら、彼らは滅びの淵にいるからである。彼らは満たされない欲望や乱れた情欲、また自分自身の良心の呵責に苦しんでいる。彼はあらゆる意味において言葉通り、みじめな状態にある。なぜなら、彼らは現在の人生をつかんでいる手がゆるみつつあり、来るべき人生のためには何の展望もないからである。

あなたには働きのための重要な分野がある。だから主人であるお方に活動的に注意深く、快活で無条件の従順を示すべきである。(教会への証 4 巻 567, 568)

人間としての完全

「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ 5:48)

わたしたちの救い主は人の性質についてすべてを理解しておられたので、どの人間にも、「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」と仰せになる。神がご自分の領域で完全であられるように、人も自分の領域で完全であるべきである。キリストを受け入れる者は、次の望みに満ちた言葉を語られた人々の中に数えられている。「彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである」。このみ言葉はわたしたちが最上で最高の品性、神に似た者に形造られた品性以下のものでは満足すべきでないことをわたしたちに宣言している。そのような品性を持つと、その生活、信仰、また宗教の純潔は他の人々への教訓的な模範となる。(牧師への勧告 112, 113)

しかし罪に打ち勝つために、自分の側では断固とした努力をしないで、自分の品性の内に魔法のような変化が見えるのを待っている者は、失望することになる。わたしたちがイエスを見つめているかぎりには、恐れるべき理由はないし、このお方がご自分のところへ来る者をすべて、最高にまで救うことができになるということを疑う理由もないのである。しかし、わたしたちは自分たちの古い性質が再び支配権を持ち、自分が再び彼のとりことなるような罠を敵がしかけるのではないかとつねに恐れることはできる。わたしたちは恐れおののいて、自分の救いの達成に努めるべきである。なぜならあなたがたのうちに働きかけて、その願いを起こさせ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。神がご自分の領域で聖であられるように、わたしたちは自分の領域で、自分たちの限りある力を用いて、聖なる者となるべきである。わたしたちは自分の能力の限りを尽くして、真理と愛と神のご品性の素晴らしさをあらわすべきである。ろうが封印に使われるように、魂は、神の御霊の印を受け、キリストのみ姿をとどめるべきである。

わたしたちは日々霊的美しさに成長すべきである。わたしたちは自分の努力で、天の模範を真似るのにはしばしば失敗する。わたしたちは自分の欠点やあやまちなゆえに、イエスの足元にひれ伏して、泣かねばならないことがたびたびある。しかしわたしたちは落胆してはならない。わたしたちはもっと熱心に祈り、もっと完全に信じて、わたしたちの主の姿に成長するためにもう一度、もっとしっかりと努力するべきである。わたしたちが自分の力に頼らないとき、贖い主の力に信頼し、わたしたちの顔色の健康であられるお方である神とわたしたちの神に讃美を捧げるようになる。(エペソ 1 卷 336, 337)

動機と行動における高潔さ

「互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあつてあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。」(エペソ 4:32)

原則と正義と正直はつねに大切にされるべきである。正直は方策を重んじるところにとどまることをしない。それらは決して相容れない。一つはバアルに、もう一つは神に属するものである。主人であるお方はご自分の僕に動機においても行動においても高潔であるようにと要求しておられる。……正直を携えていくことを選ぶ者は、自分のすべての行動に正直をあらわす。大多数の人にはこのような人は好ましくないが、神にとってはうるわしい者なのである。

サタンはあらゆるところに押し入ろうと働いている。彼は真の友を引き離そうと願っている。いつもおしゃべりをし、噂話をし、偽りの証言をしている人々がいる。この人々は不和と争いを起こす種を播いているのである。天はこの種の人々をサタンの最も有能な僕として見ている。しかし、これらのことによって傷つけられた人々のほうが、外見ではそれらを用いていくつかの成功したように見える人々の成果に対して受ける、こびへつらいの称賛などよりは、はるかに危険の少ない状況にいるのである。うわべの友達の称賛は非難よりも危険である。

自己を高める人はだれでも、自分の最善の努力から輝きをかすめてしまう。真に高貴な品性は、敵の不正な非難に憤って品位を落とすようなことはしない。そのような人の語る言葉には害がない。なぜなら、このような言葉は、打ち負かすことのできない品性そのものを強めるからである。主は、忍耐と愛の神であられるご自分としっかり結びついている民を持っておられる。すべての者は自分の生活の中でキリストの愛を表すべきである。だれも他の人の評判や立場をみくびるようなことをしてはならない。これは利己主義である。……

だれのこともけなして話してはならない。なぜなら主の御目には尊い者かもしれないからである。その一方で偉大であると感じる者は彼らの心の邪悪さのゆえに神に軽く評価されているかもしれない。わたしたちの唯一の安全は、十字架の足元にひれ伏し、自分の目には小さい者となり、神を信頼することである。なぜなら、このお方だけが、わたしたちを大いなる者とする力を持っておられるからである。……

すべての者の判断と能力が今必要とされている。一人一人の働きは注意深く忠実に行われることを要求するのに十分なほど重要なことなのである。一人の人が全員の働きをすることはできない。各々、自分の立場と特別な働きがあり、また自分の働きがなされる方法が、審判のテストに耐えなければならないことを自覚すべきである。(教会への証 4 巻 607, 608)

悪い習慣に打ち勝つ

「自分をきよく守りなさい。」(テモテ第一 5:22 下句)

何が思いと魂とからだの純潔を構成するかを知ることは、教育の重要な部分である。

品性に純潔が欠けているとき、すなわち罪が品性の一部となっていて、それには有毒な酒の一杯にひとしい惑わしの力がある。自制心や理性の力は全身を汚す習慣によって押さえつけられる。そして、もしこの罪深い習慣が続くと、頭脳は弱くなり病気になる、バランスを失ってしまう。そのような者は自分自身にとって、また彼らとなんらかの関わりをもつすべての人にとってのろいとなる。

.....

悪い習慣は良い習慣よりもたやすく形成される。そして悪い習慣を止める方がさらに難しい。生まれつきの墮落した心は、このよく知られている事実からなっている。すなわち若者を道徳的に墮落させ、彼らの道徳的かつ宗教的な観念を腐敗させるのは、彼らの品性に、永続的で純潔で腐敗していない正義と真理の習慣を植え付けるより、はるかに容易なことである。自己放縦、娯楽愛好、恨み、自尊心、うぬぼれ、羨み、嫉妬は、手本や教えがなくても、自然に成長する。わたしたちの現在の墮落した状態で、必要とされているのはただ、生来の傾向に向かう思いと品性を放棄することである。自然界では、畑をほうっておくと、いばらやあざみでおおわれてしまうことをあなたは知っている。しかし畑が価値のある穀物や美しい花を産するのを望むなら、世話と根気強い骨折りがなされなければならない。

今わたしたちはあなたに悪に絶え間なく抵抗する必要があることを提示する。全天は、神がその人々を贖うために、ご自分の愛する御子を死に渡されるほどに、価値のある者とされた男女に関心を持っている。神が造られた他のどの被造物も、人間のように、向上したり、純粋になったり、気高くなる可能性はない。そうであれば、人が自分の卑しい情欲で鈍くなり、悪に沈むとき、それはいったい神の御目にどのように映ることであろう。人は、自分がどのような者であることができ、どのような者になることができるかを想像することはできない。キリストの恵みを通して、人は絶えず心の発達が可能である。真理の光が彼の思いに差し込んで、神の愛がその心に広く発散し、キリストが与えるために死なれたその恵みを通して、人は土で造られた者であるが、彼は力ある者、すなわち不死の相続人となることができるのである。(天国で 195)

全人格の聖化

「心の深みまで新たにされて、真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着るべきである。」(エペソ4:23, 24)

真理がその人全体、すなわち、彼の思い、思想、心そして彼の力も聖化しなければならない。彼の生き生きとした活力が彼自身の肉欲的な習慣で使い尽くされてはならない。これらは克服されなければならない。さもないとそれらが彼を打ち負かしてしまう。……思想は清められる必要がある。もし体の取り扱いが思いと心の活力や純潔に大いに関係があることを自覚していたならば、男女は今のようにならずにすんだことであろう。

真のクリスチャンは聖潔をもたらす経験をする。彼の良心に罪のしみはなく、また魂を墮落させる汚点がない。神の律法の靈性はその制限する原則を伴って彼の生活に持ち込まれる。真理の光が彼の理解力を啓発する。贖い主への完全な愛の幸福感が彼の魂と神との間に割り込んでいた墮落をもたらす影響力を取り除く。神のご意志が純潔で高潔にされ、精錬され、聖化された彼の意志となる。彼の表情には天の光が現れる。彼の体は聖霊の宮にふわしいものとなる。聖潔が彼の品性を飾る。魂と体が神と調和しているので、神は彼と交わることがおできになる。……

神はわたしたちが持っているすべてのもの、すなわち思い、魂、体、精神に対して、ご自分に権利があることを、わたしたちに気づかせたいと思っておられる。わたしたちは創造と贖いによってこのお方のものである。わたしたちの創造主としてこのお方は完全な奉仕を要求なさる。贖い主として、このお方はわたしたちに権利ばかりでなく愛を一すなわち、無比の愛を要求しておられる。わたしたちは、存在している一瞬一瞬、このご要求を自覚しているべきである。……わたしたちの体も、魂も、生命もそれらがこのお方の惜しみない賜物であるというばかりでなく、神が絶えず恩恵として、わたしたちに満たしてくださり、わたしたちが自分に授かっている能力を用いるための力をも与えてくださっているからである。……「しかし彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである」とこのお方は言われる。……

神の子である者は品性にキリストをあらわす。彼らの働きは神の御子の無限の優しさ同情、愛、純潔でかぐわしくされている。そして思いと体がもっと完全に聖霊に明け渡されるほど、このお方へのわたしたちの供え物という芳香はもっとすぐれたものになる。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 909)

神の律法に調和して

「わたしに知恵（理解力）を与えてください。わたしはあなたのおきてを守り、心をつくしてこれに従います。」（詩篇 119:34）

新しく生まれるときに、心は神と調和するようになり、このお方の律法と一致するようになる。この力強い変化が罪人のうちに起こるとき、彼は死から命へ、罪から聖潔へ、違反と反抗から従順と忠誠へと移る。……

神の律法の無視あるいは拒絶から起こってくる……聖化の誤った説が今日の宗教界の動きの中で目立つ地位を占めている。これらの説は教理において間違っており、実際の結果において危険である。そしてそれらが非常に広く支持されているという事実こそ、この点において聖書が何を教えているかについて、すべての人がはっきりとした理解を持つことの重要性を増している。

真の聖化は聖書の教理である。使徒パウロはテサロニケ教会に宛てた手紙の中で、「神のみこころは、あなたがたが清くなること（聖化）である」と宣言している。そして「どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめて下さるように」と祈っている（テサロニケ第一 4:3,5:23）。聖書は、はっきりと、聖化が何であり、どのようにして得るべきかを教えている。救い主は弟子たちのために、「真理によって彼らを聖別（聖化）して下さい。あなたの御言は真理であります」と祈られた（ヨハネ 17:17）。そしてパウロは信者が「聖霊によってきよめられ」るべきであると教えている（ローマ 15:16）。何が聖霊の働きであろうか。イエスは「真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう」と弟子たちに言われた（ヨハネ 16:13）。そして詩篇記者は「あなたのおきてはまことですよ」と言っている。御言と神の御霊によって、神の律法を具体的に表現した、義の偉大な原則が人々に開かれている。そして神の律法は「聖であって、正しく、かつ善なるもの」であって、神の完全さの正確な写しであるので、その律法への従順によって形造られた品性は聖なるものになる。キリストはそのような品性の完全な模範であられる。キリストは、「わたしはわたしの父のいましめを守った」「わたしは、いつも神のみこころにかなうことをしている」と言われる（ヨハネ 15:10,8:29）。キリストに従う者はこのお方になるべきである。すなわち、神の恵みによって、このお方の聖なる律法の原則と調和した品性を形成するべきである。これが聖書の聖化である。

この働きは、キリストの内にある信仰を通してのみ、内住して下さる神の御霊の力によって成し遂げることができる。（リバイバルとその先へ 13, 14）

偽物の聖化

「『彼を知っている』と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにはない。しかし、彼の御言を守る者があれば、その人のうちに、神の愛が真に全うされるのである。それによって、わたしたちが彼にあることを知るのである。」(ヨハネ第一 2:4, 5)

宗教界で現在、優位性を得ている聖化は、自己称揚の精神と、聖書の宗教に対して無縁であることを示す神の律法を無視する精神を伴っている。これを主張する者は、聖化が瞬間の働きであり、この聖化によって、信仰を通してのみ自分たちは完全な聖潔に達すると教える。「信じさえすれば良い。そうすれば祝福はあなたのものである」と彼らは言う。受ける者の側での、それ以上の努力は要求されていないと思うのである。同時に彼らは、戒めを守る義務から解放されていると主張して神の律法の権威を否定する。しかし、神のご性質と意志のあらわれである諸原則に調和することなしに、神のご意志と品性に一致した聖なる者になるということが、人間にとって可能であろうか。……

何の努力も、自制も、世の愚劣からの分離も要求しない安易な宗教への願望が、信仰、信仰のみという教理を人気のある教理にしてしまった。しかし、神のみ言葉は何と言っているであろうか。使徒ヤコブは「わたしの兄弟たちよ。ある人が自分には信仰があると称していても、もし行いがなかったら、なんの役に立つか。その信仰は彼を救うことができるのか。……ああ愚かな人よ。行いを伴わない信仰のむなしいことを知りたいのか」と言っている。……

神のみ言葉のあかしは、行いを伴わない信仰というこの偽りの教理と対称をなしている。憐れみが授けられる条件に従わないで、天の恩恵を要求するなら信仰ではなく、憶測である。なぜなら、純粋な信仰は聖書の約束と規定にその基礎を置いているからである。

だれも神のご要求の一つでも故意に犯しておきながら、自分が聖なる者になることが出来ると信じて、自分を欺いてはならない。知っている罪を犯すことは御霊の証する声を沈黙させ、魂を神から引き離す。……「彼を知っているといいながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにはない。しかし彼のみ言葉を守る者があれば、その人のうちに、神の愛が真に全うされるのである」(ヨハネ第一 2:4,5)。(リバイバルと向こうへ 15-17)

印象、感情、そして菓

「わたしはあなたのさとしによって知恵を得ました。それゆえ、わたしは偽りのすべての道を憎みます。」(詩篇 119:104)

精神が落ち着かず、訓練、組織、規律に従おうとしない人々がたくさんいる。彼らは自分の判断をわきへおいて、経験のある人の判断に従うと、自分の自由が奪われると考える。彼らの集会から無分別で狂信的な言動という向こう見ずな無秩序の精神を追い出さない限り、神のみ働きは進展しない。

印象や感情は人が主に導かれているという確かな証拠ではない。サタンは、もしも自分が疑われなければ、感情や印象を与える。これらは安全な道しるべではない。すべての者は自分の信じている信仰の根拠に徹底的に精通すべきである。そしていかに自分の告白を飾り、神の栄光のために実を結ぶかということを、大いに研究すべきである。

しばらくの間は、彼(バトル・クリーク サナトリウムにいた患者)は新しい光を得ていると思っていた。彼は重病であって、まもなく死ぬに違いなかった。……彼が自分の見解を示していたその人々は、彼の言うことを熱心に聞き、そのうちの何人かは彼が靈感を受けていると思いさえした。……多くの者にとって、彼の推論は欠点のないもののようには思えた。彼らは彼の病室で、力強く説教した。この上なく素晴らしい光景が彼の目の前を通り過ぎた。しかし、彼の靈感の源は何だったのであろうか。それは彼の痛みを和らげるために与えられたモルヒネであった。(リバイバルとその先へ 52-54)

いわゆる医薬品と呼ばれている多くの薬品に含まれている毒は、心身の破滅をもたらす習慣や食欲を引き起こす。特許薬と呼ばれている有名な売薬中の多くのものや、医者が処方したある種の薬でさえ飲酒やアヘン、モルヒネの習慣の基礎を築く助けとなるが、これは社会にとって非常に恐ろしい災いである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 97)

もし聖化されていると主張する者が受けている祝福が、彼らを何か特別な感情に頼るようへと導いて、自分たちは神があらわされた御旨を知ることが出来るので、聖書を調べる必要はないと宣言するなら、想像している祝福は偽物である。なぜなら、それはその祝福を持っている者を彼ら自身の清められていない感情や想像に価値をおくようへと導き、神のみ言葉の中にある神のみ声に、耳を閉ざすようにさせるからである。(リバイバルとその先へ 55)

ドラム、ダンス、そして騒がしい音

「しかし、すべてのことを適宜に、かつ秩序を正して行うがよい。」(コリント第一 14:40)

あなたが述べていること……主がわたしに示しておられるそのことは、猶予の期間が閉じる直前に起こる。あらゆる異様なことがおこるであろう。ドラムや音楽、またダンスを伴った叫び声があがる。理性的な存在である人間の感覚があまりにも混乱させられ、正しい判断を下すことはおぼつかなくなる。そして、これが聖霊の感動と呼ばれる。

聖霊は決してそのような方法、すなわちそのような騒音の混乱の中でご自身をあらわされることはない。これは、純潔にして真摯かつ精神を高め、高貴にし、聖化する現代の真理の効果をなくすサタンの巧妙な方法を覆い隠すために、彼が考案したものである。……この騒音の混乱は判断力に衝撃を与え、正しく導かれれば祝福となるはずのものをゆがめてしまう。サタンの代理人たちの諸勢力はお祭り騒ぎをするために、頭にガンガン響く音と騒がしい音を混ぜ合わせる。そしてこれが聖霊の働きであると呼ばれる。……こうした推定リバイバルにあずかる人々は、あてどもなく漂流するに至るような印象を受ける。彼らは聖書の原則に関して、自分たちが以前に何を知っていたかを言うことができない。

この種の礼拝を奨励してはならない。1844年に預言された時が過ぎた後に、同じ種類の影響が起こった。同じ種類の表現がなされた。人々は興奮し、神の力だと思われていた力に動かされた。……

聖霊に導かれていると思っていた男女は裸の状態で集まりをしていた。彼らは聖なる肉体 (Holy Flesh) について話していた。彼らは誘惑の力を超越していると言い、歌い、叫び、あらゆる方法で騒がしい行為をした。……サタンがその働きに強い影響を与えており、その結果は肉欲にふけることであった。神のみ働きは辱められた。真理、聖なる真理が人間によって、ちりと同様にされてしまった。……

これらの狂信的な運動、この頭にガンガン響く音と騒がしい音はサタンの霊によって、息を吹き込まれたものであって、サタンはできることなら、選民をも惑わそうとする奇跡を行っている事実を、わたしは発表し、あかしする。

わたしたちはサタンの策略に惑わされないためにキリストと密接なつながりを保って、自分の身を守る必要がある。主はご自分の奉仕に、興奮と混乱ではなく、秩序と原則を持つよう望んでおられる。(リバイバルとその先へ 50～52)

誇る余地はない

「その時わたしは言った、『わざわざいなるかな、わたしは滅びるばかりだ。わたしは汚れたくちびるの者で、汚れたくちびるの民の中に住む者であるのに、わたしの目が万軍の主なる王を見たのだから。』」(イザヤ 6:5)

聖書の聖化を経験する者は謙遜の精神をあらわす。モーセのように、彼らは聖潔の恐るべき威厳に自身の無価値を知る。

預言者ダニエルは、真の聖化の模範であった。彼の長い人生は自分の主人であられるお方への高潔な奉仕に満たされていた。彼は神に「大いに愛せられる」人であった(ダニエル 10:11)。しかし純潔で聖なる者であると主張する代わりに、この非常に愛された預言者は、自分をイスラエルの本当に罪深い者たちと同一視して自国の民のために、神のみ前で弁護したのである。「われわれがあなたの前に祈をささげるのは、われわれの義によるのではなく、ただあなたの大いなるあわれみによるのです。」「われわれは罪を犯し、よこしまなふるまいをしました。」「わたしがこう言って祈り、かつわが罪とわが民イスラエルの罪をざんげし……」とダニエルは述べている(ダニエル 9:18,15,20)。……

ヨブがつむじ風の中から聞こえる主のみ声を聞いたとき、「それでわたしはみずから恨み、ちり灰の中で悔います」と叫んで言った(ヨブ 42:6)。イザヤが主の栄光を見て、ケルビムたちが「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな万軍の主」と呼び交わしているのを聞いたとき、彼は「わざわざいなるかな、わたしは滅びるばかりだ」と叫んだ(イザヤ 6:3,5)。パウロは第三の天に連れて行かれ、人間には言い表すことの出来ない言葉を聞いた後で、「聖徒たちのうちで最も小さい者である」と自分のことを言っている(コリント第二 12:2-4 参照、エペソ 3:8)。天使の足元に倒れて死人のようになったのは、イエスの胸にもたれかかり、主の栄光を見つめた、愛された人、ヨハネであった(黙示録 1:17)。

カルバリーの十字架の影を歩む者の側に、うぬづればや、罪から自由であると高慢に主張するようなことがあってはならない。神の御子の心臓を破ったほどの苦悩の原因となったのは自分の罪であったと彼らは感じる。そしてこの思いが彼らをへりくだりへと導くのである。イエスに最も近く生きる者は、人間の弱さと罪深さに最もはっきりと気づく。そして彼らの唯一の希望は十字架にかかり、よみがえられた救い主の功績のうちにあるのである。(リバイバルとその先へ 14, 15)

日々の救い

「だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。」(コリント第一 10:12)

ペテロの墮落は瞬間的なものではなく、徐々にであった。自信が自分は救われたという確信へと彼を導き、そして下り道を一步一步進めて、ついに自分の主人なるお方を否定できるまでに至った。わたしたちが自分を信用したり、あるいは天国のこちら側で、自分は誘惑から守れていると感じるとき、決して安全ではいられない。救い主を受け入れる者は、自分の改心がまじめなものであっても、自分が救われていると感じたり、それを口に出すよう教えられてはならない。これは誤解させる。だれでも希望と信仰を大切にすることを教えられるべきであるが、たとえわたしたちが自身をキリストに捧げ、このお方がわたしたちを受け入れてくださったことを知っている時でさえも、わたしたちは誘惑の手が届かない場所にいるわけではない。……試練を耐え忍ぶ者だけが命の冠を受ける(ヤコブ 1:12)。

キリストを受け入れ、最初の確信で、「わたしは救われている」と言う者は、自分を信頼する危険がある。……わたしたちは「だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい」と忠告されている(コリント第一 10:12)。わたしたちの唯一の安全は、絶えず自己を信用せず、キリストに頼ることである。

キリストを告白をしながら、円熟したクリスチャンにならない者がたくさんいる。彼らは人間が墮落していること、自分の能力は弱まっていること、また、道徳的に完成した者となるには適していないことを認める。しかし、キリストが重荷をすべて、苦しみをすべて、自己否定をすべて負って下さっていると彼らは言い、このお方にそれを負わせようと望んでいる。彼らは信じる以外にすることは何もないと言う。しかしキリストは「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」と仰せになるのである(マタイ 16:24)。……

わたしたちは決して満足した状態で休息し、前進するのをやめて、「わたしは救われている」と言ってはならない。この考えをいだいていると、見張り、祈り、より高い到達点に向かって押し進む熱心な努力しようとする動機が存在しなくなる。聖化された舌はキリストが来られるまでこれらの言葉が口に出るのを見出されることはない。そしてわたしたちは神の都の門を通して入るのである。そのとき、わたしたちが、永遠の救出のゆえに神と小羊に栄光を帰することができるのは、この上なくふさわしいことである。(リバイバルとその先へに 42, 43)

改心の意味

「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。」(コリント第二 5:17)

古い性質、すなわち血と肉の欲によって生まれたものは、神の王国を受け継ぐことができない。古い方法、遺伝的傾向、昔の習慣は止めなければならない。なぜなら、恵みは相続するものではないからである。新生は、新しい動機、新しい好み、新しい傾向を持つことによって成り立つ。聖霊によって、新しい命に生まれた者は、神の性質にあずかる者となる。そして彼らの習慣や行動すべてに、キリストとの関係の証拠があらわれる。クリスチャンであると口に出す者が品性や傾向における生来の欠陥をすべて保っているなら、彼らの状態は世俗的名利を追う人々の状態とどこが違っているであろうか。彼らは真理を聖化するもの、精錬するものとして感謝しない。彼らは新たに生まれていないのである。……

本物の改心は、悪への先天的、後天的傾向を変える。神の宗教はしっかりとした織物であって、無数の糸で構成され、気転と技術と共に織り込まれる。神から来る知恵だけがこの織物を完全にすることができる。初めは素晴らしく見えるが、試練に耐えることのできない布のような人が非常にたくさんいる。彼らは洗われて色あせる。色がとどまらない。夏の暑さのもとでそれらはあせて失われてしまう。その布は手荒い扱いに耐えられないのである。

多くの者の宗教もそのようなものである。品性の縦糸と横糸が試練というテストに耐えないとき、それが構成されていた素材は価値がない。新しいもので古いものに継ぎを当てようとする努力は、物事の状態を良くすることはない。なぜなら、古くてもろい素材は新しい素材との継ぎ目から破れてしまい、以前よりも、もっと大きいほころびを残すからである。つぎあては役に立たない。ただ一つの方法は、古い衣はすべて捨てて、完全に新しい衣を手に入れることである。

キリストの計画がただ一つ安全なものである。このお方は「見よ、わたしはすべてのものを新しくする。」「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。」と、宣言なさる。……継ぎはぎの宗教は、神にとって何の価値もない。このお方は心全体を要求しておられる。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1101)

イエスはご自身の命を……わたしたちのために与えてくださった。そうであれば、わたしたちは自分の最高の愛情と、最も気高い熱望と、そして、最大限の奉仕を主に捧げないのだろうか。(天国で 1 巻 350)

聖化は安息日遵守者のためにある

「安息日を覚えて、これを聖とせよ。…… 七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。」(出エジプト 20:8-10)

神はみ言葉の中で、七日目はご自身とご自身が選ばれた民との間のしるし、すなわち彼らの忠誠のしるしであると宣言しておられる。……

七日目は神がお選びになった日である。神はこの問題を再編するようにと祭司や支配者に任せてはおられない。それは、人間の判断に任せるには、あまりに重大なのである。人が自分の都合を考えて、自分たちの傾向に最も適した日、神の権威に基づかない日を選ぶことを神は知っておられたからである。それで神は七日目が主の安息日であることをはっきりと言明なさった。

神の世界に住んでいる人はだれでもこのお方の統治の律法のもとにいる。神は安息日を十戒の中心に、安息日を置かれ、それを従順の基準とされた。それを通して、わたしたちはこのお方のみ働きとみ言葉の中にあらわされている通りに、このお方の権威について学ぶことができる。……

神聖の証拠が一つもない日を支持し、その日にこのお方を礼拝すると宣言することによる以上に、人は神のみ働きとこのお方の律法に決定的に反対する立場に身を置くことはできない。偽りの安息日を神の聖なる安息日に取りかえることによって律法を汚している者、この偽りの安息日遵守を強制する者は、自らを神以上に高め、本物にまさって、偽物に誉れを帰しているのである。

偽りの安息日のために神の聖なる安息日を無視する自称クリスチャンによって聖化が主張されている。しかし、神から来る聖化は、このお方の戒めに従うことによってこのお方を尊ぶ者だけに与えられるものであると、神は宣言しておられる。罪を犯し続けている者によって主張される聖化は偽の聖化である。このように宗教界は神と人の敵によって欺かれる。……

人々は多くの作り事を追求してきた。彼らは、神が聖別しておられない普通の日を高め、その日を聖なる特権でおおった。彼らはその日が聖なる日であると宣言したが、このことがそれにほんの少しでも神聖さを与えるわけではない。彼らは人間の制度を受け入れることによって、またそれに権威を与えるために「主はこう言われる」と言えない日を、クリスチャンの安息日として世界に示すことによって、神を辱めている。(サイン・オブ・タイムズ 1898 年 3 月 31 日)

警告の声を響かせよ

「すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」
(箴言 3:6)

すべての道でわたしたちは神を認めるべきである。そうすればこのお方はわたしたちの道をまっすぐにされる。わたしたちは謙遜な心で神のみ言葉を調べ、このお方の勧告を求め、自分の意志をそのみ旨に委ねるべきである。わたしたちは神なくしては何一つすることができない。

わたしたちには真の安息日を重んじ、その守りの内に立つこの上なく気高い理由がある。なぜなら、それは神の民を世から区別するしるしだからである。世が無効にする戒めこそ、まさにその理由のゆえに、神の民がもっと大きな栄誉をささげるべきものである。忠実なカレブたちが呼び求められるのは、不信仰な者たちが神のみ言葉に侮辱を投げかける時である。その時、彼らは誇示することなく非難のゆえにそれることもなく、義務の持ち場にしっかりと立つ。不信仰な斥候たちはカレブを殺そうと用意して立っていた。彼は偽りの報告をした者たちが手に石を持っているのを見たが、それが彼を思いとどまらせることはなかった。彼にはメッセージがあり、そのメッセージを担いたかった。同じ精神が神に忠実な者によって今日表される。

詩篇記者は「彼らはあなたのおきて破りました。……それゆえ、わたしは金よりも、純金よりもまさってあなたの戒めを愛します」と言っている(詩篇 119:126,127)。人々がイエスのそばにぴったりと身を寄せるとき、キリストが信仰によって彼らの心に宿ってくださるとき、世が神の聖なる教訓に積み上げるさげすみに比例して、彼らの神の戒めへの愛は、ますます強く成長する。真の安息日がペンと声の両方で人々の前に提示されなければならないのはこの時である。第四条の戒めとそれを遵守する者が無視され軽蔑されるとき、忠実な者は自分の信仰を隠すのではなく、第三天のメッセージ、すなわち神の戒めとイエスの信仰が記されている旗を掲げることによって、エホバの神の律法を高めるべき時であることを感じる。

イエスのうちにあるがままの真理を持っている者は沈黙によってですら、不法の秘密の働きを是認してはならない。彼らは決して、警告の通達を布告するのを止めてはならない。……真理は隠すのでも、否定するのでも、偽るのでもなく、完全に明言し大胆に宣布しなければならない。(レクテッド・メッセージ 2 巻 369, 370)

真理という純潔なしるし

主は「彼に言われた、『町の中、エルサレムの中をめぐり、その中で行われているすべての憎むべきことに対して嘆き悲しむ人々の額にしるしをつけよ』」。(エゼキエル 9:4)

特にこの点に注意しなさい。聖霊の力によって彼らの内に働いた真理の純潔な印を受ける者、亜麻布を着た人によってしるしをつけられたと表現されている者は、教会内で「行われているすべての憎むべきことに対して嘆き悲しむ」人々である。(教会への証 3 巻 267)

自分自身の霊的衰退を悲しく感じ、他の人々の罪を嘆かない種類の人々は神の印のないまま放っておかれる。……

安息日を守っていると公言する者がすべて印されるのではない。他の人々に真理を教えている者の中にさえ、自分の額に神の印を受けない者がたくさんいる。彼らは真理の光を持っており、主人であるお方のみ旨を知っており、わたしたちの信仰のどの点をも理解しているが、それにふさわしい働きをしなかったのである。……

自分の品性に一つでもしみや汚れがある間は、わたしたちの内だれ一人として神の印を受けることはない。自分の品性の欠点を治し、魂の宮をあらゆる汚れから清めることがわたしたちに残されている。そのとき、前の雨が弟子たちに降り注いだように、後の雨がわたしたちに降り注ぐ。……

兄弟たちよ、準備の大いなる働きの中であなたたちは何をしているのだろうか。世と結びついている者は世の特質を受けており、獣の刻印を受ける準備をしている。自己に信頼しない者、神の御前にへりくだり真理に従うことによって自分の魂を清めている者、この人々は天の特性を受けており彼らの額に神の印を受ける準備をしている。法令が施行され、印が押されるとき彼らの品性は永遠のために純潔でしみのないままである。

今は準備をする時である。神の印は汚れた男女の額に押されることは決してない。それは野心的な世を愛する男女の額に押されることは決してない。偽りを言う舌、不正直な心を持つ男女の額に押されることは決してない。印を受ける者はみな神のみ前にしみのない者、すなわち天国のための候補者でなければならない。(教会への証 5 巻 211, 213 ~ 216)

だれが印を受けるか

「彼らの口には偽りがなく、彼らは傷のない者であった。」(黙示録 14:5)

生ける神の印を受ける者だけが、聖なる門をくぐる通行証を得る。……

生ける神の印はキリストによく似た品性を持つ者だけに押される。

ろうが印の痕跡をつけるように、そのように魂は神の御霊の印象を受け、キリストのみかたちを保つのである。

多くの者は神の戒めを守らず、義の実を身につけないので、神の印を受けない。

クリスチャンであると公言している非常に多くの者が、神の日に苦い失望に会うであろう。彼らはその額に生ける神の印を受けていないからである。なまぬるく、二心の者は、不信心な者であると公言している者よりも、はるかに神を辱めている。彼らは、決して間違ふことのないお方の導きのもとに、み言葉の真昼の光の中を歩くことができるときに、暗闇で手探りをするのである。……

小羊が命の水の源のそばに導いてくださる者たち、その目から主がすべての涙を拭ってくださる者たちは、神のみ言葉、聖書の中に表されている知識と理解を得ている者である。

わたしたちは人間を真似るべきではない。わたしたちの基準になるほど十分に賢い人間はいない。わたしたちは義と聖潔の極限まで、完全であられるキリスト・イエスという方を見つめるべきである。このお方はわたしたちの信仰の創始者であり、完成者であられる。この方は人の模範であられる。このお方の経験は、わたしたちが得るべき経験の基準であり、主のご品性はわたしたちの模範である。それならば、わたしたちの思いをこの人生の困惑と困難から解き放って、このお方に思いを固定しよう。わたしたちは見つめることによって、このお方に似た者に変えていただくことができるからである。わたしたちは良い目的のためにキリストを眺めることができる。主は全知であられるので、わたしたちはこのお方を安全に仰ぐことができる。わたしたちが主を熟視して、このお方のことを考えるとき、栄光の希望であられるお方が心の内に形造られる。

十四万四千人の中に入ると、神がわたしたちに与えてくださったすべての力を用いて、努力しようではないか。(SDAパイブル・コメント[E・G・ホワイト・コメント]7巻 970)

印するときはまもなく終わる

「わたしは、わたしをつかわされたかたのわざを、昼の間にしなければならない。夜が来る。すると、だれも働けなくなる。」(ヨハネ 9:4)

印する時は、非常に短くやがて過ぎ去ってしまう。四人の天使が四方の風を引き止めている今こそ、われわれの召しと選びとを確かなものにする時である。(初代文集 130)

わたしは、第三天使のメッセージが終わろうとしている時をさし示された。神の民には天来の力がやどり、彼らは働きを完成して、目の前にある試練の時のための備えができていた。

彼らは、後の雨、すなわち主のみ前より来る慰めを受け、生ける証が復活していた。最後の大きな警告が至る所で叫ばれ、それは警告を受け入れたくない地上の住民をわき立たせ怒らせた。

わたしは天使たちが、天をあちこちと飛びまわっているのを見た。墨入れを持ったひとりの天使が、地上から帰ってきて、イエスに自分の働きの終わったことを報告した。そこで聖徒の数がかぞえられて封印された。すると、……イエスが、香炉を投げ捨てられるのをわたしは見た。彼は両手をあげて、大きな声で、「事はすでに成った」と言われた。(同上 451,452)

わたしは、また、悩みの時に、聖所に大祭司がおられないで主のみ前に生きるためにはどのような状態でなければならないかを悟っていない人が多くあるのを見た。生ける神の印を受け、悩みの時に保護される人々は、イエスのかたちを完全に反映していなければならない。

わたしは、多くの人々が、必要な準備をおろそかにしていながら、主の日に立ち得て神のみ前に生きるにふさわしいものとなるために、「慰めの時」と「春の雨」(後の雨)とを待っているのを見た。ああ、わたしは、なんと多くの人々が、悩みの時に、避け所がないのを見たことだろう。(同上 149)

イエスが聖所を去られると、聖であって義なる者は、聖で義なるままである。なぜなら、そのとき彼らのすべての罪は消し去られて、生ける神の印を押されているからである。しかし、不義で汚れた者たちは、不義で汚れたままである。なぜならば、そのとき、彼らの犠牲、彼らの告白、彼らの祈りを、父なる神のみ座の前にささげる祭司がいないからである。それゆえに、来るべき怒りのあらしから人々を救うためになすべきことは、イエスが天の至聖所を去られる前にしなければならない。(同上 114, 115)

天使は神のしるしを読むことができる

「また、もうひとりの御使が、生ける神の印を持って、日の出る方から上って来るのを見た。彼は地と海とをそこなう権威を授かっている四人の御使にむかって、大声で叫んで言った、『わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなってはならない。』」(黙示録 7:2,3)

世界におけるあらゆることは不安定な状態である。諸国民は怒っており、戦争の大いなる準備がなされている。国が国に敵対し、王国が王国に敵対して陰謀をたくらんでいる。神の大いなる日はすみやかに近づいている。諸国は戦争と大虐殺のために自分たちの軍隊を召集しているけれども、天使への命令、すなわち天使たちは神の僕がその額に印を押されるまで、四方の風を引き止めよとの命令はまだ有効である。(SDA バイブル・コメント [E・G・初付・コメント] 7 巻 968)

四方の風は神の僕がその額に印を押されるまで引きとめられる。それから、地の勢力が、最後の大きな戦いのために、自分たちの軍隊を所定の位置につけるのである。わたしたちはどれほど注意深く、ほとんど残っていない猶予期間を活用しなければならないことであろうか。(同上)

手綱をゆるめてきた思いは変わる必要がある。……思考を神に集中すべきである。今は肉の心の生来の傾向に勝利するため、熱心に努力するべき時である。(信仰によってわたしは生きる 336)

〔悩みの時〕に入る直前に、わたしたちはみな、生ける神の印を受けた。それからわたしは四人の天使が四方の風を引き止めるのをやめるのを見た。そして飢饉、疫病、剣、国が国に敵対して立ち上がり、全世界が混乱に陥るのをわたしは見た。(SDA バイブル・コメント [E・G・初付・コメント] 7 巻 968)

神の民の額に押される、生ける神の印とは何であろうか。それは人の目ではなく、天使は読み取ることのできるしるしである。なぜなら滅ぼす天使は驢いのこのしるしを見なければならないからである。天使たちは主の養子となった息子、娘たちに、カルバリーの十字架のしるしを見た。神の律法に違反した罪は取り除かれている。この人々は婚宴の服を着ており、神の戒めのすべてに従順で忠実な者である。(同上)

もし彼らが言葉と行為によって、ご自分の戒めに従わないなら、主は真理を知っている者を容赦なさらない。(信仰によってわたしは生きる 336)

神の民を区別するしるし

「わたしはまた彼らに安息日を与えて、わたしと彼らとの間のしるしとした。これは主なるわたしが彼らを聖別したことを、彼らに知らせるためである。」(エゼキエル 20:12)

イスラエルが地上のカナンに入るために、エジプトから出てきたとき、安息日が彼らを区別するしるしであったように、現代、神の民が天の休息に入るために世から出てくるとき、安息日が彼らを区別するしるしである。

安息日遵守はご自身を知る知識を民が保つために、またこのお方に忠実な臣民と、このお方の律法の違反者とを区別するために神が定められた方法である。

それ〔安息日〕はキリストに属している。……このお方は万物を造られたので、安息日を制定された。このお方によって、それは創造のみ業の記念として別に取りおかれた。それはこのお方を創造主、また聖化させるお方として指し示している。天と地の万物を創造なされ、その万物を保っておられる方は教会の頭であり、この方の力によってわたしたちは神に和解して戴けるということをこの安息日は宣言している。なぜならイスラエルについて、キリストは「わたしはまた彼らに安息日を与えて、わたしと彼らとの間のしるしとした。これは主なるわたしが彼らを聖別したことを、彼らに知らせるためである」。すなわち彼らを聖なる者とする仰せになった。それゆえ安息日はわたしたちを清らかにするキリストの力のしるしである。そしてそれはキリストがきよめてくださるすべての者に与えられている。きよめの力のしるしとして、安息日は、キリストを通して、神のイスラエル人の一員となるすべての者に与えられている。……

キリストの創造と贖いの力のしるしとして、安息日を受け入れるすべての者にとって、安息日は喜ばしいものとなるであろう。安息日の中にキリストを見ることによって、人々はキリストのうちにいる自分を喜ぶのである。安息日は、贖いにおけるキリストの偉大な力の証拠として、創造のみ業を人々に指し示す。安息日は、人々の心にエデンの園の失われた平和を思い起こさせると共に、救い主を通して回復していただいた平和も宣傳伝える。そして自然界にあるあらゆる事物は「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませよう」というこのお方の招きを繰り返している(マタイ 11:28)。

安息日は神とこのお方の民を結び合わせる金の留め金である。(信仰によってわたしは生きる 33)

安息日の重要性と栄光

「その時あなたは主によって喜びを得、わたしは、あなたに地の高い所を乗り通らせ、あなたの先祖ヤコブの嗣業をもって、あなたを養う」。これは主の口から語られたものである。」(イザヤ 58:14)

わたしたちは安息日に喜ばしく、栄光に満ちた時を過ごした。……自分たちへの驚くばかりのいつくしみ深さのゆえに、わたしたちは神を喜び、神の栄光をたえていた。……わたしは幻のうちにとられた。……

わたしたちは安息日の重要性と栄光、すなわちその重要性と栄光についてこれからまだ悟り知るべきことについてほとんど感じず、気がついてもないことをわたしは見た。地の高いところを乗り通らせ、ヤコブの嗣業を持って養われることが何であるのかをわたしたちが知らないことをわたしは見た。けれども慰めの時、後の雨が主のみ前とそのみ力の栄光から出て降り注がれるとき、ヤコブの嗣業をもって養われることと、地の高い所を乗りとおらせるというのがどういうことであるのかをわたしたちは知る。そのときわたしたちはその重要さと栄光をもっとよく知って、安息日を見る。しかし、神のみ声によって平和の契約がわたしたちと結ばれ、新エルサレムの真珠の門が押し開かれ、輝くちょうつがいに回転し、わたしたちの耳に、どのような音楽よりも豊かな麗しく喜ばしいイエスのみ声が、その門を通して入るようにと命じられるのが聞こえるその時まで、わたしたちはこの安息日の栄光と重要性を、すべてありのままに見ることはない。わたしたちには、自分たちが神の戒めを守っていたので、この都に住む完全な権利があるのだということわたしは見た。天国、素晴らしい天国がわたしたちの家郷である。(手紙 1851年3月)

わたしは、神の指で「石の板」に書かれた十誡を見た。一枚の板には四条、もう一枚の板には六条が書かれていた。最初の板の四条は、他の六条よりももっと明るく輝いていた。しかし、第四条の安息日の戒めは、他のどの戒めよりも輝いていた。というのは安息日は、神の聖なるみ名をあがめて守るようにと聖別されたものだからである。聖安息日の戒めは、光り輝いていて、そのまわりに栄光の光輪があった。安息日の戒めが十字架につけられたのではないことをわたしは見た。もしそうであれば、他の九つの戒めも同様で、わたしたちには第四条を破るのと同じように、それらをみな破る自由があることになる。……

わたしは聖安息日が、今も、また将来も、神の真のイスラエルと未信者との間を分け隔てる壁であり、また、安息日は、神を待ち望む神の愛する聖徒たちの心を結合させる大きな論点であることを見た。(初代文集 92, 93)

安息日は神のしるし

「わが安息日を聖別せよ。これはわたしとあなたがたとの間のしるしとなって、主なるわたしがあなたがたの神であることを、あなたがたに知らせるためである。」
(エゼキエル 20:20)

イスラエル人は、自分たちが神の嗣業であることを示すために、血の署名を戸口につけた。そのように、現代における神の子らは、神が定められた署名を身に帯びる。彼らは神の聖なる律法と調和する立場に自分を置く。全体的な破壊から民を守るために、ヘブル人の住居の戸口に一つの印がつけられたのとちょうど同じように、一つの印が神の民一人一人につけられる。「わたしはまた彼らに安息日を与えて、わたしと彼らの間のしるしとした。これは主なるわたしが彼らを聖別したことを彼らに知らせるためである」と神は宣言される。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 7 巻 968, 969)

この世界に存在するどの魂も創造と贖いによって主の所有物である。個々の魂は自分の命のために、試みに会う。彼は神に属するものをこのお方に捧げているのだろうか。彼は神が代価を払って買われたものを、このお方の所有物としてすべて捧げているのであろうか。この世で主を自分の嗣業として大切にするすべての者は神の支配を受け、神のしるし、すなわち神の印を受ける。そのしるしは、彼らが神の特別な所有物であることを示す。キリストの義が彼らの前に行き、主の栄光は彼らのしんがりとなる。主はご自分のしるしを身に帯びるすべての人を守られる。

「主はまたモーセに言われた、『あなたはイスラエルの人々に言いなさい。あなたがたは必ずわたしの安息日を守らなければならない。これはわたしとあなたがたとの間の代々にわたるしるしであって、わたしがあなたがたを聖別する主であることを、知らせる（知ることができる）ためのものである。……六日の間は仕事をしなさい。しかし七日目は全き休みの安息日で、主のために聖である。すべて安息日に仕事をする者は必ず殺されるであろう。ゆえにイスラエルの人々は安息日を覚え、永遠の契約として、代々安息日を守らなければならない。これは永遠にわたしとイスラエルの人々の間のしるしである。それは主が六日の間に天地を造り、七日目に休み、かついこわれたからである。』」

神のこの承認はどの人間にとっても最高に価値がある。このお方を愛し、仕える者はみな、神の御目に非常に尊い。このお方は彼らをイエスのうちにあるそのままの真理を代表するのにふさわしい者として立たせられる。(同上)

聖所の主題を研究せよ

「彼は言った、『二千三百の夕と朝までである。そして聖所は清められてその正しい状態に復する。』」(ダニエル 8:14)

わたしたちは預言を熱心に学ぶ者でなければならない。ダニエルとヨハネの幻の中で明らかにされている聖所の主題に関して、知的に理解するまで、学びをやめてはならない。この主題は、わたしたちの現在の立場や働きに大いなる光を注いでおり、過去の経験において、神がわたしたちを導いておられたという間違いのようなない証拠をわたしたちに与えている。わたしたちが想像していたように、清められるべき聖所は地上にあったのではなく、キリストはそのとき天にある聖所の至聖所へ入られたのであった。またそこで、預言者ダニエルへ天使が語った言葉の成就として、このお方がご自分の祭司としての最後の働きを執り行っておられることをわたしたちに示すことにより、この主題は 1844 年におけるわたしたちの失望を説明している。(ライ・スチ 15 278)

2300 日は、紀元前 457 年の秋に、エルサレムを建て直せというアルタシャスタの命令が実施された時に始まることになっていた。これを起算点にすれば、ダニエル書 9:25～27 にある、この期間についての説明の中で預言されたすべての事件の適用が、完全に調和する。……70 週、すなわち 490 年は、特にユダヤ人にかかわるものであった。この期間の終了後、ユダヤ人は、キリストの弟子たちを迫害することによって、キリストを決定的に拒否し、使徒たちは、紀元 34 年、異邦人へと向かった。こうして 2300 年の最初の 490 年が終わり、あと 1810 年が残る。紀元 34 年から 1810 たつと、1844 年である。「そして聖所は清められてその正しい状態に復する」と天使は言った。(各時代の争闘下巻 120, 121)

第二、第三天使のメッセージに関するわたしたちの信仰は正しかった。わたしたちが通り過ぎた偉大な道しるべは不動のものである。悪の軍勢はこの道しるべをその土台からもぎ取ろうとし、自分たちが成功したと思って勝利を喜ぶが、彼らが成功することはない。これらの真理の柱は永遠の丘にしっかりと立ち、サタンや彼の軍勢に結びついた人間の努力によって動かされることはない。わたしたちは多くのことを学ぶことができる。だから、これらのことがそのとおりであるかどうかを知るために、聖書を絶えず調べているべきである。(信仰によってわたしは生きる 208)

聖所のきよめ

「わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、見よ、人の子のような者が、天の雲に乗ってきて、日の老いたる者のもとに来ると、その前に導かれた。」(ダニエル 7:13)

われわれの救い主は、昇天ののち、われわれの大祭司としての働きを始められた。パウロは次のように言っている。「ところが、キリストは、ほんとうのものの模型にすぎない、手で造った聖所にはいらなくて、上なる天にはいり、今やわたしたちのために神のみまえに出て下さったのである」(ヘブル 9:24)。(各時代の太閤閣下巻 135)

1800年にわたって、聖所の第一の部屋において、この務めが続けられた。キリストの血は、悔い改めた信者のために嘆願し、彼らがゆるされ天父に受け入れられるようにしてきたが、しかし彼らの罪は、まだ記録の書に残っていた。型としての儀式において、一年の終わりに贖罪の働きがあったように、人類の贖いのためのキリストの働きが終わる前に、聖所から罪を取り除く贖罪の働きが行なわれるのである。これが、2300日が終了した時に始まった務めであった。その時に……われわれの大祭司は、彼の厳粛な働きの最後の部分を行なうために、すなわち聖所を清めるために、至聖所に入られたのであった。(同上 136)

ダニエル書 8:14 に示されているところの、キリストがわれわれの大祭司として、聖所を清めるために至聖所に来られるということ、ダニエル書 7:13 に提示されている、人の子が日の老いたる者のもとに来ること、そしてマラキが預言した主がその宮に来られるということ、これらはみな、同じできごとの描写である。そして、これはまた、キリストがマタイによる福音書 25 章の 10 人のおとめのたとえの中で語られた、婚宴の席への花婿の到着ということによっても表わされている。(同上 142)

聖所の清めには……調査の働き、すなわち審判の働きが含まれるのである。この働きは、キリストがご自分の民を贖うために来られる前に行なわれねばならない。なぜなら、彼が来られる時には、彼はすべての者に、それぞれの行為に応じて報いを与えられるからである(黙示録 22:12 参照)。(同上 137)

最後の審判の日には、地位や階級、また富がわずかといえども、各人の判決を変えることはない。すべてをご覧になられる神によって、人は自分が純潔であるか、高潔であるか、キリストを愛しているかによって裁かれるのである。(信仰によってわたしは生きる 207)

天の聖所からの教え

「心はすすがれて良心のとがめを去り、からだは清い水で洗われ、まごころをもって信仰の確信に満たされつつ、みまえに近づこうではないか。」(ヘブル 10:22)

「見よ、人の子のような者が、天の雲に乗ってきて、日の老いたる者のもとに来ると、その前に導かれた」(ダニエル書 7:13,14)。……ここに描かれているキリストの来臨は、キリストが地上に再臨されることではない。キリストは、天において日の老いたる者のもとに来られるのであって、それは、彼の仲保者としての働きが終わるときに与えられる「主権と光栄と国」とをお受けになるためである。2300 日の終わりである 1844 年に起こると預言されたのは、この来臨のことであって、キリストが地上に再臨されることではなかった。われわれの大祭司は、天使たちを従えて、至聖所に入り、調査審判の働きをし、その恵みにあずかる資格があることを示したすべての人のために贖いをなさるために……神のみ前に出られる。(各時代の斗争闘下巻 211)

命の水の源から飲む必要があることを主がわたしたちに示してくださるように。その純潔な流れはわたしたちを元気づけて癒し、わたしたちとつながりのあるすべての人を元気づける。ああ、心が神の御霊によって完全に屈服しているのならよいのに。神の栄光だけを見つめるなら、なんとという天の光の洪水が魂に注がれることであろう。かつてだれも語ったことがないように語られたお方は地上の教育者であられた。復活後、寂しくエマオへ旅をしていた失意の弟子たちにとって教育者であられたお方は、二階の広間に集まっていた者たちにも教育者であられた。このお方はご自身に関する聖書のみ言葉を彼らに明らかにし、彼らの心を聖なる、新しい、神聖な希望と喜びではずませた。

至聖所で行われている働きは大きな教訓を与えている。神の天使たちは人々と通信している。キリストは聖所で務めを行っておられる。わたしたちはキリストに従って入るべき聖所に入っていない。キリストと天使たちは人の子らの心に働きかけている。地上の教会と一つになった天の教会は、地上でよい戦いを戦っている。キリストが天の聖所で、きよめの働きをしておられることと調和して、この地上で魂の清めがなされなければならない。(手紙 1887 年 37)

神の民は今、天の聖所に目を留めていなければならない。そこでは……わたしたちの偉大なる大祭司が……ご自分の民のために執り成しをしてくださっているのである。(信仰によってわたしは生きる 209)

生きている人々の審判

「だから、あなたが、どのようにして受けたか、また聞いたかを思い起して、それを守りとおし、かつ悔い改めなさい。もし目をさましていないなら、わたしは盗人のように来るであろう。どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない。」(黙示録 3:3)

審判が指定されていた時、すなわち 2300 日の終わる 1844 年に、調査と罪の除去の働きが始まった。これまでにキリストのみ名を身に帯びた者はすべて、嚴重な綿密な審査を受けなければならない。生きている者も死んだ者もともに「そのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって」裁かれる(黙示録 20:12)。

裁き主は「すべての者は彼らの信仰によって義とせられ、また彼らの行為によって裁かれる」と仰せになった。

悔い改めず、捨て去っていない罪は許されず、記録の書から拭い去られず、神の大いなる日に、罪人に敵対する証言をする。……

支配権を得ようとする悪癖に打ち勝ちたいすべての者の前には真剣な戦いがある。準備のはたらきは個人的な働きである。わたしたちは団体として救われるのではない。一人の者の純潔と献身は、これらの資格を欠く他の人の埋め合わせにはならない。すべての国民が神の前で審判を受けるのであるが、しかしこのお方は、あたかもこの地上にその人一人しかいないかのように、綿密に嚴重に一人一人を審査されるのである。すべての者が調べられねばならない。そしてしみもしわもそのたぐいのものがいっさいあつてはならないのである。

審判は今、天の聖所において進行中である。長年にわたって、この働きは続けられてきた。まもなく、その時がいつかはだれも知らないが、生きている人々の番になる。神の恐るべきみ前で、わたしたちの生涯が審査に上らなければならない。今は他のどの時にもまさって、すべての者が救い主の忠告に注意を払うべきである。「気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである」(マルコ 13:33)。「目をさましていないなら、わたしは盗人のように来るであろう。どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない」(黙示録 3:3)。(信仰によってわたしは生きる 211)

調査審判

「ある人の罪は明白であって、すぐ裁判にかけられるが、ほかの人の罪は、あとになってわかって来る。」(テモテ第一 5:24)

調査審判と罪をぬぐい去る働きは主の再臨の前に完了しなければならない。死者は書物に記録されたことによって裁かれるのであるから、彼らが調査されるその審判が終わるまでは、彼らの罪はぬぐい去られることはできない。……調査審判が終わるとキリストは来られる。そして、たずさえて来た報いを、それぞれの人の行いに従ってお与えになるのである。

すべての者は書物に書かれている事柄に従って裁かれ、各自の行為に従って報いを受ける。この審判は人が死ぬ時になされるのではない。

型としての奉仕において、大祭司はイスラエルのために贖罪をなし終えると、外に出てきて会衆を祝福した。そのようにキリストも、仲保者としての働きを終えられると、「罪を負うためではなしに、……救いを与える」ご自分を待っている民を永遠の命で祝福するために来られる。大祭司が聖所から罪を除去したときに、アザゼルの山羊の上にそれを告白したように、キリストは罪の創始者であり、扇動者であるサタンの上に、これらの罪をすべて置かれるのである。アザゼルの山羊は、イスラエルの罪を負って「人里離れた地」に送られた。そのようにサタンは、自分が神の民に犯させたすべての罪を背負って、千年の間地上に監禁される。地上はそのとき、荒れ果てて、住む者もない。そして彼はついにすべての悪人を滅ぼす火の中で、罪の刑罰を余さず受ける。

地上に住むおびたしい数の人々のうち、わずかの人、本当にごくわずかの人が永遠の命へと救われる。その間、真理に従うことによって自分の魂を完全にしていなかった大多数の者は第二の死へと定められる。

天で調査審判が行われ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行われなければならない。(信仰によってわたしは生きる 213)

研究 26

三重のメッセージ



もうひとりの御使のメッセージ

Part 5

キリストのうちに完全

「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ 5:48)

「神はわたしたちが神に似た者となることができるように備えをしてくださっている。そして神は、人が曲がった意志をさしはさんで神の恵みをむなしくしない限り、これをなしとげてくださる。……

神が完全であられるようにあなたがたも完全な者となれ、と仰せになったのである。律法は神のご品性の写しにすぎない。あなたの天の父のうちに神の政府の基礎である原則が完全に現われているのを見てほしい。……

『このお方の善をお借りし、善なるものとなり、』神が神の領域で完全であられるように、わたしたちは自分の領域で完全な者となることができる。

イエスは、あなたがたの父が完全であられるようにあなたがたも完全な者となりなさいと仰せになった。もし神の子供であれば、あなたがたは神の性質を受けついでおり、従って神に似た者とならざるを得ない。子供はみな、父親の生命によって生きる。……あなたの中にあるこの生命が、イエスに生み出したのと同じ品性を生み出し、イエスに現わしたのと同じわざを現わす。」(祝福の山 94～96)

「わたしたちは自分たちの力の限りを尽くしてキリストにある男女の高さにまで到達しようと奮闘しているであろうか。わたしたちはこのお方の満ち満ちた徳を求め、つねにわたしたちの前におかれた目標—このお方のご品性の完全さ—を目標

して走っているであろうか。主の民がこの目標に到達するとき、彼らの額には印が押される。み霊に満たされて、彼らはキリストにあつて完全なものとなり、そして記録の天使が『事はすでになった』と宣言するのである。」(私たちの高い召し 150)

完全とは何か

「そしてあなたがたはこのお方のうちに完全なのである。」(コロサイ 2:10 英語訳)

「わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。……あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。」(エペソ 4:13, 15)

「しみもなくきずもなく、安らかな心で、神のみまえに出られるように励みなさい。」(ペテロ第二 3:14)

「彼らの口には偽りが無い。なぜなら、彼らは神のみ座の前に傷のない者だからである。」(黙示録 14:5 英語訳)

「クリスチャン品性の理想は、キリストに似ることである。わたしたちの前には、絶えざる前進の道が開かれている。わたしたちには到達すべき目標、獲得すべき標準があり、そこにはあらゆる良いこと、純潔なこと、高潔なこと、高尚なことが含まれている。品性の完全を目ざして、つねに奮闘し、たえず前進した向上すべきである。」(教師・両親・生徒への勧告 365)

「キリストは信じる罪人が罪のうちにいつづけることなく、不法から戒めに対する服従へと向きを変えるとき、ご自分の完全さと義とを着せてくださる。

神は義であられながら、同時にキリストの功績を通して罪人を義認することがおできになる一方で、だれ一人として知っている罪を犯し続けたり、あるいは知っている義務をおろそかにしたりしながら、自分自身の魂をキリストの義の衣で覆うことはできない。」(信仰によって私は生きる 115)

「キリストはわたしたちの模範であられる。このお方は柔和でへりくだったお方である。このお方から学び、このお方の模範を模倣しなさい。神のみ子には傷がなかった。わたしたちは、もしこのお方の右に座を得たいのであれば、この完全

さを目ざし、このお方が勝利なさったように勝利しなければならない。」(教会への証 3 巻 336)

「神はわたしたち一人ひとりをご自分のうちに完全となり、わたしたちが世に対して、ご自分のご品性の完全さを表すことができるようにと意図しておられる。」(今日のわたしの生涯 15)

「神はキリストを自分の個人的な救い主としないすべての人を正当にお責めになる。しかし、神は信仰のうちにご自分の許に来るすべての魂を許してくださり、信仰を通してキリストと一つになることによって、神のみわぎをなすことができるようにしてくださる。そして、これらの人々について、イエスは『わたしが彼らにおり、あなたがわたしにいますのは、彼らが完全の一つとなるためであ[る]』(そしてこの一致が品性の完全をもたらすのである)』と仰せになった。」(レクテッド・メッセージ 1 巻 375 () はエレン・G・ホワイト注釈)

神は完全を要求なさる

「わたしはあなたがたの神、主であるから、あなたがたはおのれを聖別し、聖なる者とならなければならない。わたしは聖なる者である。」(レビ記 11:44)

「神はわれわれが完全な標準に到達するように求めておられ、キリストのご品性の模範をわれわれに示しておられる。救い主は、悪に抵抗した生活を貫き通して完全なものとされたご自身の人性によって、人間が神と協力すれば、この世において品性の完成に到達できることをお示しになった。これは、われわれも完全な勝利を得ることができるという神からの保証である。」(患難から栄光へ下巻 231)

「今、われわれの大祭司がわれわれのために贖いをしておられる間に、われわれは、キリストにあつて完全になることを求めなければならない。救い主は、その思いにおいてさえ、誘惑の力に屈服されなかった。サタンは、人々の心の中に、なんらかの足場を見つける。心の中に罪の欲望があると、サタンはそれを用いて誘惑の力を表わす。しかし、キリストはご自身について、『この世の君が来る……。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない』と宣言された(ヨハネ 14:30)。サタンは、神の子の中に、彼に勝利を得させるなんのすきも見つけることができなかった。神のみ子は、天父の戒めを守られた。そして、サタンが自分

に有利に活用することのできる罪が、彼の中にはなかった。これが、悩みの時を耐えぬく人々のうちになければならない状態なのである。」(各時代の大争闘下巻 397)

「道徳的完全が、すべての者に要求されている。悪を行なう傾向に対しては、先天的であろうが、後天的のものであろうが、そのような傾向と妥協するために、義の標準を下げてはならないのである。品性が不完全であることは、罪であることを知らなければならない。」(キリストの実物教訓 304)

「キリストの恵みと力によって、道徳的、霊的完全さがすべての者に約束されている。」(患難から栄光へ下巻 171)

「天父が完全であられるように私たちも完全になりたいと望むならば、小事をなすことに忠実でなければならない。いやしくもなす価値のあることなら、りっぱになしなさい。どんな働きも忠実になしなさい。どんな小さなことについても真実を語りなさい。毎日、愛の行為をなし、明るいことばを語りなさい。人生の路上に微笑をまきちらしなさい。このように働くとき、神はあなたを嘉納し、いつかはキリストが、『良い忠実なしもべよ、よくやった』とあなたに言われる日がくるのである(マタイ 25:21)。」(青年への使命 139, 140)

「わたしたちの役割は、罪を捨て、決意をもって品性の完全さを求めることである。わたしたちがこのように働くとき、神はわたしたちと協力して、わたしたちをご自分の王国に場所を得るのにふさわしい者としてくださるのである。」(ビュー・ア
ンド・ヘルト 1901 年 6 月 11 日)

完全は到達できるものである

「完成を目ざして進もうではないか。」(ヘブル 6:1)

「われわれが信仰によってキリストにつながっているかぎり、罪はわれらの上に権をとることはできない。神はわれわれが品性の完全に到達できるように、われらの中にある信仰の手を求め、それをみちびいてキリストの神性をしっかり把握(はあく)させてくださるのである。」(各時代の希望上巻 135)

「もしあなたが神を自分の力とするならば、あなたは最も落胆するような状況下において、自分ではとうてい到達することはできないと思っていたクリスチャンの完全さの高さと広さに達することができる。」(教会への証 4 巻 567)

「キリストの功績を通して、信仰によってわたしたちに与えられるこのお方の義を通して、わたしたちはクリスチャン品性の完全さに達しなければならない。わたしたちの毎日毎時の働きが、次の使徒の言葉の中に表されている、『信仰の創始者であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つ』。こうしている間に、わたしたちの思いはますますはっきりし、わたしたちの信仰はますます強くなり、そしてわたしたちの希望は確かなものとなる。わたしたちはこのお方の純潔と麗しさと、またこのお方がわたしたちを神との契約に入れるために払ってくださった犠牲とを思っ無我夢中になり、疑いや失望を語るなど思いもよらないことになるのである。……

神とわたしたちの救い主の愛を深く考えることによって、また神のご品性の完全さを熟考し、信仰によってキリストの義を自分たちのものとして主張することによって、わたしたちは同じみすがたに変えられるのである。」(教会への証 5 巻 744)

「キリストの義を求める切なる願いで心を満たそう。」(患難から栄光へ下巻 270)

「品性が築かれるのは、行為によってである。」(祝福の山 186)

「もしあなたが品性の完全さに到達したいのであれば、考えと行動の両方が必要となる。」(教会への証 4 巻 568)

「品性の完全は、それを求めて奮闘するすべての人が到達できるものである。これは福音の新しい契約の基礎そのものとされている。エホバの律法は木であり、福音は芳しい花、またその木が結ぶ実である。」(レクテッド・メッセージ 1 巻 212)

「これらの人々のうちのある者は、決してクリスチャン品性の完全さに到達することがない。それは、彼らがこうした品性の価値も必要性も認めないためである。」(教会への証 2 巻 519)

「品性の完全は一生涯の働きなのであって、神の定められた方法のうちに遅々とした骨折りの歩みによって品性の完全のために奮闘しようとししない人々は決して到達できない。わたしたちはこの問題においてどんな間違いも犯す余裕はない。かえってわたしたちは日ごとにわたしたちの生ける頭であられるキリストへと成長していきたいのである。」(教会への証 5 巻 500)

キリストがわたしたちの模範

「すべてのクリスチャンの仕事は、キリストの品性を研究することである。」(ビュー・アンド・ヘルド 1893 年 8 月 15 日)

「キリストはわたしたちの型(パターン)、すなわち従うようにとわたしたちに与えられた完全にして聖なる模範であられる。わたしたちは決して型と等しく(equal) なることはできないが、わたしたちの能力にしたがって、型に倣い、それに似ることはできる。」(ビュー・アンド・ヘルド 1895 年 2 月 5 日)

「わたしたちがキリストに似た姿に変えられるのは、キリストを愛し、キリストにならい、このお方に全面的に頼ることによってである。」(キリストへの道 95)

「わたしたちの救い主の品性の完全さをはつきりと知るときに、わたしたちはまったく変えられ、主の純潔なかたちにかたどって新しくされることを願うのである。」(祝福の山 23)

「クリスチャン品性の理想はキリストに似ることである。人の子キリストがその生活において完全であられたように、キリストに従う者も、その生活において完全でなければならない。」(各時代の希望上巻 20)

「顔の表情、物言う目は、神のみ言葉を愛し尊ぶ者の欠点のない品性を証している。」(各時代の希望下巻 64)

眺めることによって

「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。」(コリント第二 3:18)

「われわれは、キリストの一生について毎日瞑想する時間を持つがよい。イエスの一生の要点を一つ一つとらえ各場面、ことに最後の場面を想像のうちにとらえるべきである。」(各時代の希望上巻 80)

「信仰によって主の大いなる犠牲を瞑想するとき、魂はキリストの霊的生命に同化する。」(各時代の希望下巻 142)

「わたしたちがイエスのご生涯を模倣するのは、このお方から目をそらすことによってではなく、このお方について語ることによってであり、このお方の完全さを深く考えることによってであり、嗜好を精錬し、品性を高尚にしようと努めること

によってであり、また信仰と愛を通して、熱心で辛抱強い努力によって、完全な型（パターン）に近づこうとすることによってである。キリストの知識—このお方のみ言葉、このお方の習慣、そしてこのお方の教訓と教え—を得ることによって、わたしたちはこれまで非常に綿密に研究してきた品性の徳をわがものとするようになり、自分たちがすっかり敬服している精神を吹き込まれるようになる。イエスはわたしたちにとって『万人にぬきんで』、『ことごとく麗し』いお方となられるのである。」（神のむすこ娘たち 341）

「神のご品性の完全さを心に思い続けるとき、精神は新しくなり、魂は神のみかたちに再創造される。」（教育 7）

「もし目をキリストにそそいでいるなら、み霊の働きは、その魂が神のみかたちに一致するまでやまない。」（各時代の希望中巻七）

「祈りのために多くの時間が用いられるべきである。それはわたしたちの品性の衣が小羊の血に洗われ、白くされるためである。」（教会への証 5 巻 717）

「祈りをもってこのお方のみ言葉を研究しなさい。何か他の本を読むためにそれをおろそかにしてはならない。この書物は罪を自覚させる。それは救いの道をはっきりと表している。それは輝く栄光に満ちた報いを見せてくれる。それはあなたに完全な救い主を表し、あなたにこのお方の尽きることのないあわれみによってのみ、あなたが救いを期待できることを教える。」（教会への証 1 巻 163）

健康改革と完全

「愛する者たちよ。わたしたちは、このような約束を与えられているのだから、肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くなろうではないか。」（コリント第二 7:1）

「自然の法則を無視するなら、品性の完全さに到達することはできない。なぜなら、それは神の律法の違反だからである。このお方の律法はこのお方ご自身の手で、すべての神経、すべての筋肉、わたしたちの全身のすべての繊維に記されており、また人に委ねられてきたすべての機能に記されている。」（私たちの高い召し 266）

「食欲に手綱をあげわたす者がクリスチャンの完全さに到達することは不可能である。」（健康に関する勧告 113）

「あなたは自分自身の精神の支配権を完全に掌握（しょうあく）しないかぎり、クリスチャンの完全さに到達することはできない。」（教会への証 2 巻 311）

「食欲の支配的な力は、幾千もの人々にとって墮落となってきたが、もし彼らがこの点において勝利していたならば、彼らはサタンのほかのどんな誘惑に対しても勝利を得る道徳的な力を得ていたはずであった。しかし食欲の奴隷となっている人々は、クリスチャン品性を完成できないのである。六千年間続けられてきた人間の不法は、その結果として、病気、痛み、そして死をもたらしてきた。そしてわたしたちが時の終わりに近づくにつれ、食欲にふけさせようとするサタンの誘惑はますます強力で、ますます勝利するのが困難なものとなる。」（教会への証 3 巻 491, 492）

「食することにおける節制は、あなたが忍耐強い人になれる前に、実践されなければならない。」（教会への証 2 巻 405）

「この経路を通して到達すべき偉大な目標は、健康ばかりではなく、病んだ心身では到達できない完全さであり、聖潔の精神であることを、いつもはつきりさせておくべきである。」（教会への証 1 巻 554）

完全についての誤った観念

「このお方が再臨なさるときには、このお方はわたしたちをその罪から清めたり、わたしたちの品性における欠点をわたしたちから取り除いたり、あるいはわたしたちの気質や傾向の弱さを癒したりはなさらない。もしわたしたちのためにこれらがなされるとすれば、この働きはそれ以前にすべて成し遂げられるのである。……これらはこの恩恵期間にすべてなされるべきことである。この働きがわたしたちのために成し遂げられるべきなのは、今である。」（教会への証 2 巻 355）

「品性の欠陥を通して、サタンはその人の心全体を支配しようと働きかける。彼は、人がこれらの欠陥に固執するならば、自分が成功を取めることを知っている。それだから彼は、欠陥に打ち勝つことは不可能であるという致命的な詭弁をもって、キリストに従う人々を欺こうと、いつもけんめいになっている。……それだから、だれでも、自分たちの欠陥は不治のものであると思ってはならない。神は、それらに打ち勝つ信仰と恵みをお与えになるのである。」（各時代の大争闘下巻 223）

「聖潔を主張する人はだれ一人として実際には聖なる者ではない。天の書に聖なるものとして登録されている人々は、その事実に気づかないものであり、自分自身の善を誇ることなど思いもよらない人々なのである。」(信仰によって私は生きる 140)

「聖書の聖化は、強い感情から成り立っているのではない。……瞬間的な聖化などというものはない。真の聖化とは日ごとの働きであり、生涯が続くかぎり継続するものなのである。」(きよめられた生涯 10)

「自分の行為によっておきてを守り、きよくなろうとしている人は、不可能なことをしようとしているのである。人がキリストなしにすることはすべて利己心と罪に汚れている。信仰によるキリストの恵みのみがわたしたちをきよめるのである。」(キリストへの道 74)

「人類が聖なる肉体を受けるとき、彼らは地上にとどまることなく、天へと連れて行かれる。罪はこの世の生涯で許されるが、その結果が今すべて取り除かれるわけではない。キリストが『わたしたちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じかたちに変えて下さる』のは、このお方の再臨のときである。」(セレクト・メッセージ 2 巻 33)

ときどき、皆さんはこのような人を見ることでしょう。彼らは大きくて、強くて、誇りたかいです。彼らはすぐに闘い、いつでも大さわぎをします。しかし、神はわたしたちにだちょうのようになりなさいとは仰せになりません。あるいは、誇り高く、氣どって歩く美しいクジャクのようになることもです。

そのかわりに、わたしたちに、はどのようにになりなさいと言われる。イエスは次のように言われました。「わたしがあなたがたをつかわすのは、羊をおおかみの中に送るようなものである。だから、へびのように賢（かしこ）く、はどのように素直（すなお）であれ」（マタイ 10：16）。

イエスがはどのように「素直」と言われるとき、何を意味しているのでしょうか。はとは信じて疑わず、純真で、人に仕えるように訓練することができます。

わたしたちは神様の創造されたあらゆるものの特徴やそれら一つ一つに対する神様の大きな保護を見て、教訓を得るべきです。「空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取りいれることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか」（マタイ 6：26）。

「二羽のすずめはアサリオンで売られているではないか。しかもあなたがたの父の許しがなければ、その一羽も地に落ちることはない。またあなたがたの頭の毛までも、みな数えられている。それだから、恐れることはない。あなたがたは多くのすずめよりも、まさった者である」（マタイ 10：29-31）。

きゅうりと水菜とみょうがのサラダ

◎材料

きゅうり	3 本
水菜	1 束 70 グラム
みょうが	1 つ (お好みで増やしてください)
新しょうが	1 片 (適量)
塩	小さじ 1
しょう油	大さじ 1
レモン汁	大さじ 1
昆布だし (粉末)	小さじ 1 / 2
ごま油	適量
はちみつ	小さじ 1 / 2 (なくても可)
細切りのり	適量

◎作り方

1. 具材を細切りにして、ボールに入れます。
2. 調味料を全部入れて、よく混ぜます。
3. 器に盛ってから、トッピングに細切りのりをのせます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



誇り高い？それとも平和的？



だちょうは、世界でいちばん大きくて、重くて、走るのがはやい鳥です。他の鳥は空中ではもっと速いスピードで動けますが、だちょうは飛びません。しかしながら、およそ時速 70 キロものスピードで走ることができます。そんなわけで、この驚くべきスピードのおかげで、だちょうは追いかけてくる動物をふり切ることができます。この巨大な鳥はまた、両足に 10 センチほどもあるつめを持っていて、ライオンを殺すほどの威力をもったキックができます。また、オスのだちょうはいつでもライオンみたいになることができるのです！

だちょうは強くて、極端に暑くても寒くても生存でき、たいてい 50 年以上生きています。

しかし、この鳥でひとつ興味ぶかいことは、あまりかしこくないということです。だちょうは非常に大きいのですが、脳はクルミくらいの大きさしかありません。

ヨブ記には次のようにあります：

「だちょうは威勢よくその翼をふるう。しかしこれにはきれいな羽と羽毛があるか。これはその卵を土の中に捨て置き、これを砂のなかで暖め、足でつぶされることも、野の獣に踏まれることも忘れている。これはその子に無情であって、あたかも自分の子でないようにし、その苦勞のむなしくなるをも恐れない。これは神がこれに知恵を授けず、悟りを与えなかったゆえである。これがその身を起して走る時には、馬をも、その乗り手をもあざける。」(ヨブ記 39:13-18)。

そうです、だちょうは非常にはげしく闘うことでよく知られています。